

恵みの里公社の今後は？



大山恵みの里公社は、新大山町がめざす大山恵みの里づくり計画の具現化のために平成19年7月に設立されました。設立から5年経過した公社事業の検証、今後の運営方針や組織体制を議論するため、議員討論会を開催しました。

意見

【近藤議員】

公社がどれだけ町民に利益を出したかが大切。行政との連携も不十分。

【西尾議員】

方針をはっきり示さなければ、検討委員会の答申通り株式会社に移行しても、運営がむずかしい。

【竹口議員】

多額の税金を支出している組織に対して、関与の度合いを議論したい。

【岩井議員】

どこまで自立を求めるのか。自立するための方法も議論したい。

【諸遊議員】

工口農業の補助金を出しているので、公社に農産物を出荷するよう指導すべきだ。

【椎木議員】

議長が副理事長として出ているので、公社の議案を事前に議会で協議してはどうか。

【野口員議員】

町長は運営の見通しがついたので農産加工施設の事業を始めた。赤字が出ないことが前提ではないか。

【大森議員】

道の駅は公社の赤字に大きく貢献している。山陰道の全線開通後の運営方法を議論してはどうか。

【池田議員】

町からの補助金が少なく、農家所得の向上につながる公社にしてほしい。

【米本議員】

加工所は町の施策に合う使い方をする業者に貸し出すべきだ。農産物の販売場所で、水産物も売ってはどうか。

【杉谷議員】

議員が経営の細部まで意見を言うべきではない。公社の理事を信頼して任せるべきだ。

【小原議員】

行政が商売をするのはむずかしい。町長が理事長をつとめる公社でよいのか。

【足立議員】

流通とネット通販に力を入れて、この部門の売り上げを伸ばすべきだ。



道の駅「大山恵みの里」

【吉原議員】

公益事業には補助金を出さなければならぬが、収益事業は自立していくべきだ。

【岡田議員】

安定した農産物を確保することが、運営の安定につながるのではないか。

討論

① 公社の採算性

【野口員議員】

多額の補助金支出が続くなら、公社をやめることも考えなければならぬ。